

## 令和7年度 キッズフロンティア I 番館(児童発達支援)自己評価総括表

○保護者評価実施期間	2026年3月1日 ~ 2026年3月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2026年3月1日 ~ 2026年3月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日			

### ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	指導員や児発管など、立場の違うスタッフがそれぞれの視点で話し合い、「その子に一番合ったサポート」を全員で考え、心を込めて支援している。	言葉だけでなく、絵カードや写真を使って「次は何をするか」を分かりやすく伝え、おさまが自分から進んで動けるような工夫をしている。	新しい支援の方法や専門的な知識を学ぶ勉強会を定期的におこない、スタッフ全員がより良いサポートをお届けできるようにレベルアップを目指す。
2	保育園や学校、相談窓口の方々とこまめに連絡を取り合い、おさまがどこにいても安心して過ごせるよう、地域全体で見守る体制を整えている。	スタッフ同士でその日の様子をすぐに共有し、誰が担当しても変わらない、安定した丁寧な関わりができるようにしている。	災害などの困った時でも、おさまの安全をしっかり守れるよう、避難訓練や対応ルールの見直しを繰り返しおこない、安全安心な場所づくりを徹底する。
3	日々の送り迎えやラインワークスでのやり取りを大切に、お家での悩みや小さな成長と一緒に喜び、歩んでいける関係づくりを心がけている。	小さな目標をたくさん作り、ひとつひとつクリアする喜びを感じてもらうことで、おさまの「やってみよう！」という気持ちを大切に育てている。	これまでの支援が本当におさまの力になっているかを定期的にみんなで見直し、もっと喜んでもらえる、成長につながる療育に取り組んでいきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	おさまひとりひとりの成長スピードやその日の状態に合わせた、よりきめ細やかなプログラムの調整や、全スタッフ間での関わり方の統一にまだバラつきがある。	日々の支援業務に追われ、新しい知識を取り入れるための体系的な研修時間の確保や、学んだ内容を現場のルールとして落とし込む作業が後手に回っている。	短時間でも参加できる事例検討会を定期的に設け、成功事例や困りごとを共有することで、組織全体の支援レベルを底上げしバラつきをなくす。
2	特定の経験豊富なスタッフに知識や対応が頼りがちになってしまい、事業所全体としてどのスタッフでも同水準の専門的ケアを提供できる体制が完全ではない。	「経験則」や「阿吽の呼吸」で進めてしまっている業務があり、手順が明確に言語化・図解化されていないため、スタッフ間での認識の差が生まれやすい環境にある。	誰が見ても一目で動けるような支援マニュアルやチェックリストを作成し、経験年数に関わらず質の高いサービスを安定して提供できる仕組みを構築する。
3	日々の事務的な連絡は行えているが、将来の目標や環境の変化など、より深いレベルでの情報共有や連携が、多忙な時間帯には不十分になることがある。	送迎時などの限られた時間内では、どうしても「その日の出来事」の報告が中心となり、長期的な視点での相談や共有にまで至らない場面が生じている。	スタッフひとりひとりが得意分野(運動、音楽、工作など)の担当を持ち、月替わりで新しい活動案を提案・実施することで、療育のバリエーションを広げる。